

特集

桃山中学校の道德研究

本年度、桃山中学校では文部科学省の研究指定を受け、小中9年間、一貫教育としての道德教育について、研究を行いました。

(1) 授業改善・指導法等の研究

小学校の先生と合同研修会を開催するなどして、授業改善・効果的な指導法等についての研究を行いました。9年間をともに育むという意識を高め合うとともに、「気軽に参観し合う」、「お互いを知る」、「ともに『地域を誇れる』教材を創る」ということを中心に連携を深めました。

また、授業改善の視点や、平成三十一年度からの（小学校は平成三十年から）の教科化も見据えた中で、桃山中初の取組として「副読本」を採用しました。教科化になるということは道德の時間の教科書ができるということです。数社の出版社の中から、「心つ



ないで（教育出版）を採択し、授業を展開しています。そして、これは昨年度から始まった取組ですが、桃山中の特色ともいえる「ローテーション道徳」も継続しています。教科の授業と

は異なり、学級担任がHRで授業を行うだけであったものを、副担任の先生も一緒にやって、学年、学校全体で道德教育を展開していくようにしました。

(2) 道德の授業の評価について

前述のとおり、道德が「特別な教科道德科」となります。教科になるということは、評価を行うということになります。桃山中では今までにも行ってきた、授業の終末の自己評価「その時間（道德の時間）の振り返り」（Bアンケート）に加え、Aアンケートを実施することになりました。Aアンケートは、「先週の道德を受けて何か思ったこと・できたこと」を授業の冒頭に聞くアンケートです。たった1週間、時間をおいただけなのに「授業を終えての生活の中で」「生徒たちは」「実践」を行っているということがわかりました。これは、本年度の研究の中で、たいへん大きな成果と言えます。今までは難しいと思われていた「道德の実践態度の育ちと見とり」、「道德の時間の評価」を考えていく上でとても参考になった内容です。

(3) 道德の授業公開と京都ゆかり

の、桃山ならではの教材開発
六月・十月は「道德教育推進月間」とし、公開授業を行いました。桃山中学校だけでなく、校区内の3小学校と

文部科学省委託事業
平成二十七年「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」研究指定校

も連携し、桃山4校のすべてで道德の授業を公開しました。

桃山中学校では、この六月は土曜参観日に全校道德を体育館で実施し、テーマはネット依存、ネットいじめの2本立てで行いました。学年問わず、主体的に手を挙げ、問題解決に向けての意見をたくさん出してくれました。保護者の方々にも授業の感想や建設的な意見など、たくさんアンケートに書いていただきました。ありがとうございました。

また、自作教材は、京都や地域に誇りがもてる、夢や希望をはぐくむことができる、生きることの魅力や意味の深さを考えることのできる教材開発にこだわりました。結果、京都に住いの京セラ名誉会長・日本航空名誉



顧問 稲盛 和夫氏の生き方を題材に道德の授業を創作することができました。そして、十月、その稲盛氏を本校にお招きするという奇跡も実現し、これからの社会を生きる本校の生徒たちに向けて「君の思いは必ず実



現する」というテーマで講演いただくことができました。

(4) 終わりに

研究指定を受けることで、教職員の指導案作成やデータ分析など、パソコンと向き合う時間も増え、多忙感が増した一年だったかもしれませんが、しかし、何気ない生徒同士の会話の中からも、「道徳性」や「道徳的実践力」が確かに育まれ、よりよい生き方とは何かをしっかりと考えていることや、お互いを刺激し合う集団の力が芽生えていることに気づかされる場面が何度もありました。このような生徒の姿を教育実践の原動力として、今後も教職員一同研鑽に努めていきたいと考えています。

